

図1.世界のエネルギー供給上位10カ国のデータ

	米 国	中 国	ロ シ ア	印 度	日 本	ド イ ツ	フ ラ ン ス	カ ナ ダ	英 国	韓 国
1次エネルギー供給量計 (石油換算百万トン)	2,363	1,609	753	533	498	275	289	234	213	213
%原油 別名 原油 比率	石炭 43.4	61.7	16.2	34.1	21.8	24.7	5.1	10.7	16.0	23.5
	石油 40.7	19.3	20.4	47.8	36.0	35.3	35.5	35.8	47.6	35.8
	天然ガス 原生力	22.1	26.5	54.1	4.1	13.2	22.6	14.6	37.4	11.9
	水力/地熱など	4.6	15.6	3.4	38.8	3.4	42.4	4.4	15.1	1.8

図2.世界のエネルギー供給上位10カ国のデータ

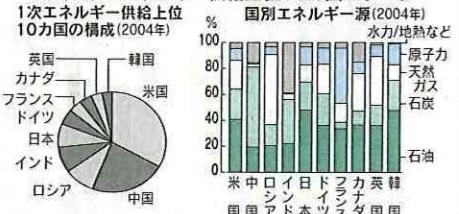
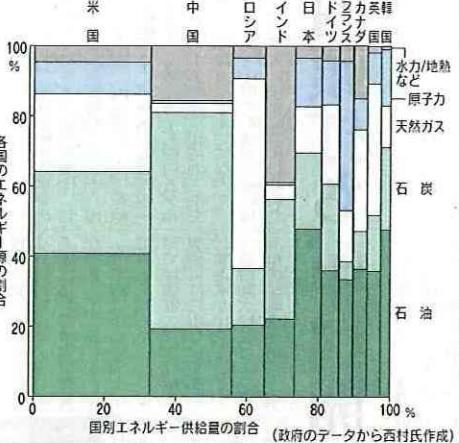


図3.面グラフで見る「世界のエネルギー供給上位10カ国」
1次エネルギー供給量上位10カ国における供給量(2004年)



新たな視点、見いだす契機に

立てられるはずです。二つの切り口の組み合わせで面積を作り出し、その意味を考へることで、メッセージが自然と浮かびあがってきます。面発想を使えば、このようないきつきが生まれやすくなります。

面発想では切り口が多い場合でも、強制的に二つを選ぶのは棒グラフの横幅をマウスが必要があります。これが考える力を養うこともつながります。

面発想のグラフは縦軸と横軸に軸に何を取るのか決めれば、手書きで描けます。方眼紙をマイコンで描いておけば、ロフトソフトの「エクセル」など、表計算ソフトを作成した後でグラフから作る方法もあります。作成した棒グラフを画像としてペーパーに分解し、個々の修正する方法です。ただしには結構時間がかかります。多用する人には面

「かけ算」
をしている人であれば、自社の売上高を「地区別×販売店別」という形の面グラフにまとめてあることで、どの地域でどの販売店が重複を図で示すことができる。その図を使って、ある一定の範囲を設定する。この範囲を「かけ算」の切り口と呼ぶ。しかし、これらはどちらももしかして、あるいは思えるかもしないません。



仕事
鮮やか
コンサルタント

「データを分析するのが苦手」、「資料がまとまらずプレゼンテーションがうまくできない」。こんな苦い経験をしているビジネスペーパーも多いのではないだろうか。コンサルティング会社を経営し、「知りたいことは「面」に聞け!」(日本経済新聞出版社)の著者である西村行功氏(45)に、データの分析力やプレゼン能力を高める手法を伝授してもらおう。全三回。

データの分析力を高め、あがらせる考え方のことは、「面発想」が効果です。うまく使うとデータの分析力だけではなく、以上の「分析の切り口」仮説を立てる思考を向上させることにもつながります。

効果的に分析結果のメッシュを組み合わせることで、させることにもつながります。

セージ(意味)を浮かび、経営コンサルタントに

資料の要点 スパッと提示

グラフを「面積」で見せる

れたら、あなたはどう分析するでしょうか。

この表に示されているデータは、各国のエネルギー供給量と、国ごとの供給量に占めるエネルギー源の構成比。つまり「国」というデータと、「エネルギー源」というデータが組み合わさった表になっています。

こういう表が示された

別工場で「うメッセージ」では、「そこ」と「どう異なる」意味があるのか、**2つの要因**で整理して、面グラフを描いてみましょう。

エネルギー源を表しています

2つの要素を「かけ算」

にあるように思えるかもしけ

自分の思考も整理・発展

ターすれば便利に使えます。では面発想を使って具体的にグラフをつくりましょう。

複数データ駆使

図1に示されているのは、政府のウェブサイトに掲載されている「世界の一次エネルギー供給量」のデータです。上段から「この表を分析せよ」とあります。そこから得られる意味やメッセージをまとめるように、お読みください。

複数データ駆使

分析の切り口について分岐してみましょう。

ギー源」という切り口にそれを考慮してみましょう。

二つ目は、「エネルギー供給量」の国別では米国、中国の占める割合が高くなると、エネルギー供給量はどのように大きくなるか分析してみましょう。

確ではありません。一つのグラフで表現していることが取れません。また、天然ガスも国とロシアで大きな面積を占めていて、上位十一位ができます。二ルギー源であることをかります。

これが「面発想」で、他のグラフを掛け合わせて、様々な意味が読み取れるようになります。

この「面積」分析の手順は、グラフの面積から様々な意味が読み取れるようになります。

この結果を図3に面グラフで示しました。このグラフは図2の円グラフで示した各国のエネルギー供給量を横軸に示す。図3では米国、中国が全日本の半分を超えるエネルギー供給量を示すのです。

直観的に理解